

# 木曾川



INDEX.....

## ふるさとの街・探訪記《高根村》

飛騨川源流が流れる山紫水明の高根村

## AREA REPORT

村の発展に貢献する高根ダムの開発

## 気ままにJOURNEY

厳しさも優しさも、自然とともに生きる人々

## 歴史ドキュメント

地震王国日本、災害の歴史と実情

## TALK&TALK

地震のメカニズム、その特徴と今後の課題

## 民話の小箱

柚ヶ池の恋物語

木曾川文庫は治水の資料館。

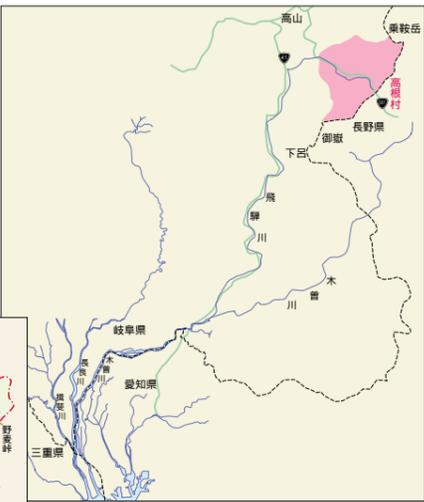
水の大切さや恐ろしさを歴史から学び、

これからの治水を皆様とともに考えていきたいと思っています。

秋号は飛騨川源流の村から山村の生活やダム開発を中心に地震シリーズでは、近年の地震災害を特集します。



# 飛騨川源流が流れる山紫水明の高根村

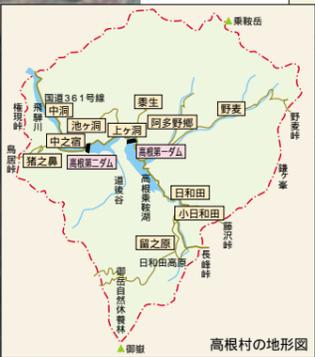


北に乗鞍 南に御嶽

雄大な自然の麓に位置する高根村は、岐阜県が誇る山紫水明の地かつては飛騨から江戸への本街道として重要な位置にありました。緑豊かな山村の大半は森林で、わずかな平地に人々が住み、田畑を耕し、山の仕事を続けてきました。この高根村の生活が大きく変貌したのはダム建設以降。現在は豊かな地域資源を活用して、自然体験などを活用した観光開発を進め、将来の発展をめざしています。

## 乗鞍岳と御嶽のある里

北に乗鞍岳がそびえ、南に霊峰御嶽山を擁する岐阜県高根村は、森林が大部分(96%)といつ緑と高原の村です。東は野妻峠、日和田を越えて長野県に接しています。この高い山々から流れ出た水は、阿多野郷、日和田、桑生川、塩蔵谷、道後谷となり、これらを集めた川が飛騨川源流です。村の中央部を西流する飛騨川に近寄り、国道三六二号が走り、沿道には一の集落が点在しています。かつて千二百人の人口を擁した高根村も過疎化や高齢化が進み、現在は八百人弱となっています。急傾斜地が多く山間高冷地であるため農林業などの第一次産業はきわめて



高根村の地形図



高根村空撮

高根村の歴史は、今から約一万年千年前、御嶽山の北麓、海拔千三百メートルの溶岩台地の原野で始まり、一時代の最終氷河期の寒冷期にあたり、北海道は樺太、シベリアと陸続きで津軽海峡も一部本州とながっていたようです。当時の気温は現在よりも七、八度低く、この地はトウモロコシなどの亜寒帯針葉樹林がおり、獣を追って北や南から人々が渡来したようです。この人々が使用した石器が、日和田地区の池の原高原で見られました。この石器の中のナイフ形石器は、飛騨で現在のところ下呂町で発見されていない珍しいもので、石器の材料の黒曜石は長野県から、下呂町は下呂町から入ったと考えられており、このことから考えると、このように高根村が岐阜県と長野県を結ぶ大切な道筋であったといえます。

## 高根村の始まり

高根村の歴史は、今から約一万年千年前、御嶽山の北麓、海拔千三百メートルの溶岩台地の原野で始まり、一時代の最終氷河期の寒冷期にあたり、北海道は樺太、シベリアと陸続きで津軽海峡も一部本州とながっていたようです。当時の気温は現在よりも七、八度低く、この地はトウモロコシなどの亜寒帯針葉樹林がおり、獣を追って北や南から人々が渡来したようです。この人々が使用した石器が、日和田地区の池の原高原で見られました。この石器の中のナイフ形石器は、飛騨で現在のところ下呂町で発見されていない珍しいもので、石器の材料の黒曜石は長野県から、下呂町は下呂町から入ったと考えられており、このことから考えると、このように高根村が岐阜県と長野県を結ぶ大切な道筋であったといえます。

## 古代社会の官道整備

大化二年(六四六)飛騨の国府が高山市に置かれると、役人が通行するための官道が整備されました。都から東国、関東方面への官道は、東山道後の中山道で、飛騨を通る官道は東山道・飛騨支路で、飛騨へへてからの経路は、次の通りです。

- 金山町下原 中原 上原 竹原 下呂

## 争いを繰り返した武家政権

武家政権が確立した中世社会。飛騨でも江馬、姉小路、京極、三木などの公家や武士たちが争いを続け、甲斐の武田の軍勢が高根村から飛騨へ攻め込んだこともあった。神が住むといわれる山、御嶽信仰が盛んになったのもこのころ。麓から御嶽を拜むための「四門」の二つ、菩提門が長峰峠に置かれ、鳥居も建てられていました。中世社会にこの地の呼び方が阿拝郷から「阿多野郷」に変わり、前の時代の官道の呼び名も鎌倉街道となりました。

## 交通網を整備した金森長近

長い戦乱の果て、飛騨を統一したのは三木氏空射により威嚇しました。中心で見られた太古井村の孫太郎は斬首、その首を高山の斤舎前にさらしました。このため、この年は阿松を飾るなかたのでこの事件を阿松事件と呼びます。梅村の方と見られた人々の家が打毀れ焼打に、この波は阿多野にも及んできました。この暴動の責任により知事を退任した梅村は、東京の牢獄で病死しています。明治四〇年には高根銀山がストライキが起り、千余名が参加、これを鎮めるために警察官が派遣されました。さらに明治四三年にも鉱夫一七〇名が不払いの賃金の支払いを要求、山深い地にも新しい時代の波は押し寄せていました。

野妻峠は飛騨と信濃を結ぶ峠道です。木曾義仲や武田信玄もこの峠から飛騨に侵入し、明治時代になると野妻峠は、飛騨から信州の諏訪の製糸工場へ行く糸引き士女たちの道として大きな意味を持つようになりました。明治四三年の高山本線の開通により野妻峠の利用者は少なくなりましたが、阿多野や大野郡益田郡の一部の人々にとっては重要な交通路としての役割を果たしていました。村の生活を大きく変えたのはダムの建設でした。一四五億円の費用により昭和四五年に完成した高根ダムは、第一と第二ダムからなり、第一ダムの発電に用いられる水車は容量・落差ともに世界最大のものでされています。ダム建設により村内の道路は整備される一方、高原地帯の開発も進められ、平成一〇年度から第三次総合計画がスタート。御嶽リゾート開発に着手するなど、輝く、高原地球村飛騨たかねをコンセプトにさまざまなプロジェクトが実施されています。

# ふるさとの街・探訪記

でしたが、天正一四年(一五八六)豊臣秀吉の命令で飛騨へ攻め込んだ金森長近により滅ぼされました。金森氏が飛騨を治めたのは、元禄五年(一六九二)までの百七十年間。以後、明治まで天領となりました。金森治世の大きな特徴は、交通網の整備です。江戸への表道として「日和田道」主として商業の道として「野妻道」を改修・整備しています。改修前の野妻道とよびはれた信濃への近道は、人が通っても牛や馬が通れないほどの険しい道。金森氏は千二百もの高山の中腹に、新しい道を開き、また中之宿から上ヶ洞までの川沿いの新しい道を整えて上ヶ洞と日和田はそれぞれに旅館を置きました。

## 山村の生活と収入

江戸時代、高根村全部と朝日・小坂・久々野の一部をまとめて「山方」三ヶ村、そのうち高根村は別に「奥山」と呼ばれていました。飛騨の山々から切り出される質の良い木材、サウナなどの木材は、飛騨材と呼ばれ、名古屋や近江まで高く売れました。また、江戸城や名古屋城などの建物にも多く使用されています。このため、幕府は質の良い木が生える山をすべて「御林山」として幕府の山として、勝手に木を切ることを禁止しました。また、木の切り出しは計画的に行ない、切った跡には植林を続けました。木の切り出しは地元元の農民に行なわせ、賃金が支払われました。これを「御救山元代」といい、人々の大切な収入源となっていました。切り出した材木は御用木は、川下けといつて飛騨川に流しましたが、この人足賃も大切な収入源でした。

しかし、御用木の切り出しが中止された場合は、山稼ぎ、川稼ぎの人々はたまたまに生活に困窮します。そこで幕府は、代金は「安石代」(時価の約四分の一の安い値段)で、それも一年後に代金を支払うという「山方米を大量に山村へ払い下げました。この制度は幕府が特に飛騨の村々に許したもので、御用木の切り出しが再び始まっても、そのまま続けられました。



飛騨南方山御用木旗

幕府は鉱山の開発も奨励した。高根でも主銅の鉱山があららちで開発されました。牛や人の背で荷物を運ぶ牛方や、歩荷も大事な仕事。男の人が外出して稼いでいる間、家にいる女性は、畑仕事のほかわらひ粉やくす粉づくりに励み、冬の麻布織りも大事な仕事でした。こつて作られたもの多くは、村の外へ売りに出されました。江戸末期の記録によると、わらひ粉は飛騨の特産品、売り上げの二位に入っています。



高根鉱山

## 大原騒動と大飢饉

江戸中期、飛騨じゅうを揺るがす大事件が起きました。明和八年(一七七一)安永元年(一七七三)天明八年(一七八八)の三回にわたって起きた大原騒動です。明和騒動は、代官大原彦四郎が発令した、御用木切り出し中止に反対して起きた騒動。飛騨の農民の代表が高山で奇合を開いた後、代官に味方した商人たちの家を壊しました。安永騒動は検地の命令に農民が反対して起きた騒動。検地命令は新しい田畑だけではなく、古田畑も調べ直すとつものでした。これに反対する奇合が飛騨各地で開かれ、宮村河原大集会には一万人もの農民が集まりました。明和・安永の二回の騒動の後、死刑一四名、島流し一七七名を含めて、全部で九千八百十一人が罰せられたといえます。高根村の犠牲者は二名。最初の騒ぎに加わった大古井の伝十郎は高山で死刑、中之宿の磯右衛門は伊豆の新島に流され、そこで死んでいます。

これらの騒動は多くの犠牲者を出しましたが、そのおかげで南飛騨の山方百姓、高根村と敵しい状況にあり、村民の約半分は、観光業などの第三次産業に就いています。高根村では近年、御嶽山、乗鞍岳をはじめとする素晴らしい自然景観、白樺と牛の草食む牧歌的な高原景観、悲しくもけなげな女工哀史「あお野妻峠」の舞台となつた野妻峠、これらの地域資源を活用して、自然体験などを取り入れた観光事業に力を入れており、将来の発展をめざしています。

朝日・小坂・久々野の一部は、これ以後、毎年安い米を三千四百石も買つてかきまわすようになった。天明騒動は彦四郎の子、大原龜五郎郡代が増税や不正に反対して起きた騒動です。この時の訴えを幕府は聞き入れ、郡代は島流しにされ、多くの役人などが罰せられました。農民側は死刑が一人名だけであつたのは、お叱りといつて軽い罰ですみしました。天明の大飢饉(一七八二-一七八七)と天保の大飢饉(一八三〇-一八三八)は高根村にも壊滅的な被害を与えました。人々は草や木の根だけで、松の皮まで食べて飢えをしのぎ、最後には糞を塩漬にして食べたといえます。家族全部が死に絶えた家を、潰れ家といいますが、飢饉の終わりのころの記録には、小日和の農家四〇軒のうち十二軒しか残っていないと記されています。長峰峠頂上の石の経塚は天保十年と刻まれていて、このころから、飢饉で亡くなった多くの人々を弔うために建てられたものと思われる。明治時代に入ると、この地域一帯は飛騨、高山、筑摩県を経て、明治九年には高根村が誕生。昭和五年には大野郡に編入し現在の村を確定しています。江戸幕府に代わり、明治元年に着任した高山県知事梅村速水は水戸藩出身で着任当時二二歳。その若さで理想主義は県下の各方面で改革を急行した。明治二年一月、これまでの慣例となつた山方米の払い下げがないことを不満として阿多野・小坂郷の農民は陳情に赴くことしたが、小坂郷の人々は参加せず、千人余りの阿多野郷の人々も美女峠を越えて村に戻りました。これに対し梅村速水は総代二四名を捕え、大砲の



梅村速水

参考文献  
『高根村史』 高根村  
『わたしたちのたかねむら』  
高根村教育委員会  
『岐阜県地名大辞典』 角川書店

# 村の発展に貢献する高根ダムの開発

険しい山々とわずかな耕地。

緑豊かな高根村の歴史は、まさに厳しい自然との闘い。中部電力による高根発電所の開発計画は、寒村対策を克服する電力事業、水没による大きな犠牲を払いましたが、電力の一般供給や道路改修など、村の将来に大きく貢献しています。



高根ダム

## 多目的ダムの建設ラッシュ

水力発電は経済の発展につれて発達し、大正時代の全国平均は毎年一〇万kW、昭和に入ると一〇年代までには毎年四〇万kWの割合で増加を続けていました。

終戦の混乱が終息の兆しをみせた昭和一五年には、災害の防除、食料の増産、電力の開発を最大主眼とした国土総合開発法が制定され、経済基盤の育成に必要である電力と治水治水に結びつく河川総合開発法の施行を契機として、多目的ダムによる河川の総合開発業務が全国的に推進されるようになりました。

飛騨川においては飛騨川水系一貫開発計画作成が進められており、高根・馬瀬川などの開発計画が進められていました。

## 高根ダムの建設計画

昭和二九年、中部電力による「高根発電所」建設のための調査が始まりました。上ヶ洞の山合いに、巨大なダムを造り、その水で地下発電をするという雄大な計画でした。



日影・大古井集落のあと

ダムで沈む土地はその七〇％が国有林野地域社会に与える影響も少ないことから、高根村には異論はなく、かねてから寒村対策に苦慮していた村議会は、発電所の建設が村財政に潤いをもたらす上に、開発にももたらす実施される県道などの道路改良整備が、農林業の振興や生活文化の向上に大きな期待が寄せられるとして、誘致には積極的な姿勢を示していました。

昭和三五年八月、現地に高根水力調査所が設置され、ダムサイト、地下発電所、原石山などの調査と実施設計が進められました。その間に電力需要の長期展望から揚水式に変更され、翌年には第一発電所の同時建設を含んだ開発計画が地元発表されました。

揚水式発電とは、上下二つのダムを造り、一度発電に使った水を下のダムに貯めておき、その水を余った電力を使ってポンプで上のダムへ押しあげて再利用する構造です。湯水期や電力需要が多い時期に、繰り返し水が利用できるようになっていきます。

この計画が実施されると村の中心部にあった日影・大古井地区の五六戸全戸と、小・中学校各一校、農地一〇haが水没することとなり、地元関係者に大きなショックを与えました。両地区は早速「第一ダム反対委員会」を結成して激しい反対運動を展開、開発を希望する村当局と鋭く対立し、村長の説得にも心じる構えをみせませんでした。

事態を憂慮した地元選出の国会議員や県会議員は、誠意ある補償条件として関係者の説得に奔走。昭和三七年には村が高根ダム対策委員会、地元が高根第一ダム水没対策委員会を結成し、共同で中部電力との積極的な交渉が続きました。

昭和三八年、中部電力から出された高根計画の水を発電だけに使う案が国の電源開

発調整審議会にて認められ、昭和四〇年、中部電力の高根水力建設所が開かれて、工事が始まりました。

## 水没と補償

高根第一ダムの建設により、水没などによる住家の移転は五六戸、買収を必要とする土地は二五七ha、水没した主な公共施設小学校・中学校・教員宿舎・畜産センター・神社寺院・県道高山福島線の一部などで、当時の飛騨川流域における、水力開発史上最大のものです。

村外へ移転する両地区の人々や、原石山の工事のために移転しなければならなくなった十三軒の人々は、それまで牛の放牧やわらび粉の生産に使っていた共有地を使えなくなるだけでなく、新しい仕事を探さなければなりません。これは漁業組合も同様で、アズ・イウナ・ニマヌ・アユなどを放流していた十三haに及ぶ漁場を失うことになりました。

これら損害補償について、昭和三八年以後、村と地元の対策委員会と中電との間で折衝が続けられ、次々と解決していききました。一五七haの土地については満足な金額で買い上げられ、五六軒の家へもいささかな補償金が支払われました。このうち九〇％が高山市に移転しています。

大古井にあった道後神社は古い歴史を持つ由緒ある神社でしたが、昭和四〇年、上ヶ洞の神明神社に合祀されました。

この神社は水没集落の産土神で、境内の四菜(四隅)には樹齢千年という四本の大杉がそびえていました。この



道後神社最後の式

四本の神木のうち三本が江戸末期に幕府の命令で切り倒されましたが、一本だけは残っていました。

合祀にあたり、この木を切つて五十棟の神棚を作り、離村する氏子へ配りました。

日影の誓願寺は、享保九年(一七二四)に創建された古い寺



旧高根小学校

で六五戸の檀家をもっていました。この寺も民家の移転とともに高山市へ新築移転しました。



誓願寺(本堂)

高根小学校・高根中学校の旧校舎は水没により中電の手で現在地に新築され、両校舎とも近代的な施設、設備を備えたものに生まれ変わりました。

## 工事で賑う高根銀座

昭和四〇年の工事開始と同時に輸送道路の新設改修及び仮設備工事に着手しました。工事に使用する主要資材や機器類は、中電のものだけで約一〇万t。これらの機材を運び入れるためには、これまでの一車線の県道では役に立たず、路線拡幅、退避所増設、線形改良、橋梁補強などの大工事が行なわれました。一方、高山線も単線であったため、莫大な資材を円滑に輸送するための列車運行は困難でした。このため、白川口駅付近と神昌寺駅の二ヶ所に退避側線が新しく設けられ、久々野駅にも中電専用線が造られました。工事が最盛期に入った昭和四一年〜四三年頃には、村はかつてないほどの活気を呈しました。上ヶ洞には飲食店、衣料品店、パチンコ店、映画館など四二軒が建ち並び、高根銀



拡幅工事

座と呼ばれました。これらの店の売上は、昭和四三年に一億円以上あったといわれています。

昭和四四年、工事が終わりに近づくと工事関係者がほかの工事現場へ移動し始め、昭和四六年を過ぎると、高根銀座ももとの静けさに戻りました。

## ダムは大切な村の財産

第一発電所の四つの発電機が運転を開始したのは昭和四四年でした。第一発電所の発電力は、三四万kWで、中部電力飛騨川筋の発電所の中では最大です。第一ダ

## 「自然を活かした観光地の村」

高根村の豊富な自然を観光面に生かして、村に発展を考えようとする動きは昭和四〇年代ころから頻繁になってきました。ダム工事での資金が道路改良に大きな役割を果たし、村外の人々を招き入れる見通しが立つてきたからです。

緑豊かな自然環境は、一方で人々を苦しめる大きな要因。しかしながら、この山の深さや冬の雪、夏の涼しさが現在の都会の人々が求めているものなのです。それに加え、壮大な高原や澄んだ谷川の流れ、深い原生林

清らかな空気、北アルプスなどの高い山々を仰ぐ素晴らしい眺め、素朴な村の姿、どれ一つをとっても都会の人々の憧れを満たさないものはありません。

昭和四八年、村は「高根村観光開発計画」を策定し、現在の自然の姿や人々の生活を壊さないような観光開発を行なうことにより、村の活性化をめざしました。

特に高根観光開発公社で力を入れているのは、映画で一躍有名になった野麦峠です。他にも高根村には、優れた景観や森林を活かしたオートキャンプ場、日和田高原キャンプ場、アイリックス自然村南乗鞍オートキャンプ

プ場、無印良品南乗鞍キャンプ場があり、夏場を中心に利用者でにぎわっています。

平成一〇年一月には、御嶽山麓に待望のチャオ御岳スキーリゾートがオープン。このスキー場の特徴は、標高二千二百mから千八百mのグレンデで、全国でも有数の高さを誇るコーストアップであり、八人乗りリフトやスキーやスノーボードが全面滑走できるコースが五本あります。御嶽や乗鞍岳が一望できる素晴らしいロケーションとパウダースノーと呼ばれる雪質が人気を呼び、オープン当初から多くの人々が賑いを見せています。厳しくも豊かな自然環境を村の財産に、

観光力をいれる高根村。そのした成果はチャオ御岳スキーリゾートをはじめ、多くの観光施設を訪れる人々の笑顔が物語るようです。



チャオ御岳スキーリゾート

- 参考文献 『高根村史』 高根村
- 『わたしたちの高根村』 高根村教育委員会
- 『地域活性化戦略』 財政卓県産業文化振興事業団



かがり火まつり

# 厳しさも優しさも、自然とともに生きる人々

松明を手に氷点下の世界を行く乙女たち。凍て付いた着物は氷のヤスリとなつて、工女の柔肌を容赦なく切り刻み、ひゅつひゅつとつななる吹雪は、松明の炎さえかき消してしまふ。そんな野麦の里も、実りの秋。木立を抜ける風はいつそつ碧く、旅人の髪をかきあげる。女工哀史の時代からほぼ百年。高根には、優しい季節が流れているようだ。

集落の地名ともなっている野麦とは、野生の麦ではなく、峠の一面に群生する熊笹のこと。麓の村が凶作になる秋には、不思議にもこの熊笹の根から稲に似た穂がでて、わずかばかりの実を収穫するそうです。米が育たない飛騨の山里のこと。飢えた人々は我先にとその実をとり、腹の足しにしたそうです。その味が麦に似ていることから、人々は熊笹と

## 熊笹が群生する野麦峠

野麦街道が走る高根村へは、JR高山駅から上ヶ洞行き濃飛バスに乗って約一時間十分。格子戸の商家が立ち並ぶ高山を越え、久々野を抜けるところから先は、まさに山紫水明を満喫する八入の旅。とはいえ、断崖絶壁にへばりついた国道を事もなげに走る八入に、思わず冷や汗。山道が苦手な都会の下ラッパには、ちやうど真似のできないお手なみです。道路が整備された今でも、険しいこの山道を



野麦峠展望台への道

まだあとけさなが残る糸引き乙女たちは、どんな想いで越えたのでしょうか。空に向かって屹立つる山々。V字型に切れこんだ急峻な溪谷。人を押し返してしまふような厳しい自然環境は、それゆえに女工哀史のような悲話を生み出したのでしよう。「ああ、飛騨が見える。」この言葉を残して短い生涯を終えた政井みね。映画『あゝ野麦峠』のヒロインは、そんな厳しい心ざとでさえ、焦がれてやまなからたので。ふるさとの山、ふるさとの川。人々が求めて止まない原風景は、父のような厳しさも母のような優しさをたたえた高根の山々に眠っているのかも知れません。

野麦峠。標高一六七二m。飛騨の高山と信州松本を結ぶ全長一四四kmに及び野麦街道のほぼ中央、最高地に位置する峠道です。

## 気ままにJOURNEY

お助け小屋



支えた糸引乙女の日々。ちた一つの生命を代償に、家計を支えた少女たちの青春の日々。あれからほぼ一世紀が過ぎた今、野麦峠はその美しい姿を今も空に写し出しています。冬の往復に乙女たちがつかの間の憩いを求めた峠のお助け小屋は、レストハウスとして復元。野麦峠の頂上には映画監督山本茂実氏の努力で記念碑が、展望台にはヒロインを演じた吉永小百合の寄付で「政井みねの碑」が建てられています。



政井みねの墓

当時の乙女たちの生活を偲ぶのが日本唯一の峠資料館、野

とたたずんでいます。涼しい風が木立を吹き抜けると、季節はあつという間に氷点下の世界へ、白いベールにおおわれた雪山に眠る乙女の涙を、私たちは忘れることができません。

## 幻想的な日本一かがり火まつり

悪条件だった自然環境を逆手にとって、観光の村として再生を願う高根村。乙女たちが越えた野麦峠も大切な財産ですが、この村を一躍有名にしたのが、日本一かがり火まつりです。祭りはその名にふさわしく、真夏の夜の炎の饗宴です。白樺が美しい日和高原の白龍神社で行なわれます。この付近にある柚ヶ池は雨乞いの大白電伝説を伝える聖域であり、村人たちの信仰の地。天を焦がす火柱は山の神の化身のように煌々と燃え上がり、千基のかがり火は闇の中から白樺林と御嶽を浮き上がらせて、人々を神秘と幻想の世界に包み込みます。毎年八月第一土曜日に開催されるこのまつりは、御嶽の裾野で採火された御神火を柚ヶ



かがり火まつり開催地、日和高原の白龍神社

池周辺のがかり火に移り、先着千名の松明行列に続いて、二〇mの大白竜が力強く舞う中、獅子舞や太鼓が繰り広げられます。クラ イマックスに近づくと、高さ一五mの大きなかがり火一基、九mのかがり火一基が一気に燃え上がり、その美しさに会場は興奮の渦。かがり火がハチハチ音を立てて燃え上がる中、夜空にぱいぱい高原火が打ち上がり、名実ともに日本一のがかり火祭典はクライマックスを迎えます。この祭りは村人たちが頭をひねって生み出したもの。高根村と火の関わりは深く、野焼きの焼き畑農業はもうろんのこと、牧場では野焼きが行なわれていました。御嶽、乗鞍岳を望む高原では木曾馬や牛が放牧されており、春先には牧場で野焼きをして、雑木の処

呼んでいました。そんなところから、野麦の名も生まれたのでしよう。寒さ厳しき飛騨の国を物語るエピソードです。この野麦街道は平安の世に整備された官用道路。乗鞍や御嶽に比べれば、比較的緩やかな野麦峠は、街道の条件を整えていたのでしよう。とはいえ、幅一mにも満たない街道は、牛一頭、馬一頭が通るのにやがの広さ。一歩で足を踏みはずせば、奈落の底という難所でも、まさしく命を賭けての道行きであつたに違いないと推察。別称鎌倉街道、江戸街道と呼ばれた野麦街道は、牛方や歩荷が行き交つ重要な幹線道路。源氏再興の折、木曾義仲が軍馬を走らせたのも、下剋上の時代、上杉謙信の越中侵入を牽制するため、武田信玄が全軍を率いたのもこの道でした。近世になると交易の道としてさまざまな物資が運ばれ、野麦峠の入口の野麦集落には、問屋や宿場が軒を並べ、米がとれない集落で

したが、財をなした商人もいたそうです。美しい野麦峠に眠る悲話。明治から大正の初期にかけて、飛騨の農家の娘たちのほとんどが、信州へ糸引きに出かけていました。二月の末、飛騨の各地から高山に集まった乙女の大部隊は、美女峠から朝日村を抜け、中之宿や上ヶ洞、野麦集落などに泊まって、幾日もかかり、時として雪崩が起きる山や二mも積もった雪と闘いながら、野麦峠を越えていきました。綿の着物にネルの腰巻、手甲脚半、お高祖頭巾、肩かけ、古足袋にわらじ、信玄袋を肩にかけたのが彼女たちの道中姿。乙女宿を出るのは早朝三時。一列に並んだ乙女たちは、三人に一本づつの松明を手に、氷雪の世界への道行きを始めたのでした。容赦なく冷たい雪の風は、吐く息さえたちどころに凍らせてしまふ厳しさです。わらじには雪玉が食らいつき、凍て付いた着物は氷のヤスリとなつて、娘たちの柔肌を痛めつけ、したりたり落ちた鮮血は峠の雪を赤く染めていたそうです。

行こうか信州へ戻るか飛騨へ、こころが思案の野麦峠。野麦峠が海ならよからういとし殿御と船で越す。野麦峠の石地蔵様はおらがためには守り神。難儀していく吹雪の道や製糸工場での長く単調な糸繰り作業をまぎらわすため、歌い継がれた、糸繰り歌。もともと諏訪一帯の労働歌でしたが、糸引乙女たちの手になってからは、氷雪の野麦越えの苦しさ、奴隷的な苦役の辛さを、歌に込めたのでしよう。結核に苦しみ、血を吐きながら、納戸の片隅で息を切らした少女や、厳しい吹雪の峠越えに耐え切れず、千尋の底へ呑み込まれた少女は、後を断たなかつたといえます。富国強兵策を徹底した明治政府を底辺で

理や牧場の害虫駆除をし、放牧できる環境を整えていたのです。この広大な牧場では牛の安全と冬場の肥育に対する労苦の慰労を兼ねて酒を飲み交わす牧場祭が行なわれており、野焼きと牧場祭をヒントに生み出されたのが日本一かがり火まつりです。人口千人にも満たない村に訪れる観光客は約三万人。このイベントに村民すべてが参加し、一人一役も三役もこなすという火事場の馬鹿力は山国の過酷な自然に耐えた飛騨の人々だからこそ、発揮できるのでしょうか。辺境という名に屈することなく、自然という財産とともに生きる高根の人々は、父のような厳しさと母のような温もりをもつ自然本来の姿を身体で知っているのです。野麦峠の頂上まで、石段の道を一步一步登れば確かに膝は笑うけど、身体は心から満足と、いつ言葉が聞こえてくるようです。秋風は額にじんだ汗を拭きとってくれました。こんな簡単なトキキフでなくても、飛騨の人々の足下にも及ばないでしょうが、それでも額に汗するだけで、自然のエネルギーや優しさをおすそ分けしてもらったようなそんな心地よさが身体も心も包みこんでくれました。

## 高・根・村・の・歳・時・記

### 高根特産、トモロコシオーナー制度

イワナに山菜、ソバ、搾りたての牛乳などなど、高根村には美味しいものがたくさんありますが、トモロコシもその一つ。高原で育てるため、気温の落差によって糖度が増し、飛騨牛の良質堆肥を使うため、栄養たっぷりのトモロコシが収穫できます。もちろん、愛情入りだから美味しさは太鼓判。毎年春には県内を中心に愛知県、静岡県、大阪府、関東地方などでオーナーを募集。こうして応募したオーナーは、8月末に開催される「タカネコーン収穫祭」で思う存分トモロコシを堪能することができます。この日は飛騨牛のバーベキューやイワナのつかみ取りなど、盛大な交流会も実施されます。



### 高根村 EVENT INFORMATION

- 野麦峠山開き(野麦峠).....5月1日
- 日本一かがり火まつり(日和高原).....毎年8月第1土曜日
- 日和田地区例祭(一位の森八幡神社・森越神社).....8月12日~13日
- 中洞地区例祭(中洞八幡神社).....8月14日
- 池ヶ洞地区例祭(津島神社).....8月14日
- 野麦地区例祭(熊野神社).....8月14日
- 中之宿地区例祭(中之宿猪ノ鼻八幡神社).....8月15日
- 黍生地区例祭(黍生八幡神社).....9月3日
- 上ヶ洞地区例祭(道後神社).....9月第1土曜日
- 阿多野郷地区例祭(阿多野郷八幡神社).....9月第1土曜日







# 民話の小箱

## 柚ヶ池の恋物語

その昔、高根村には原家という長者屋敷がありました。室町時代からの金持ちで、村人は親方と呼んでいました。「この原家に奉公していたのが、ちんま」という美しい娘でした。ちんまはとてもお料理上手。

優しく、愛敬もありみんなから好かれていましたが、恐ろしいほどの力持ち。魔性の女のようでした。

ある時、露店に風呂を炊いて原の旦那が入っていたところ、急に雷雨にみまわれました。

その時、ちんまは茶碗を持つように軽々と風呂を底の中に運んだそうです。そんなちんまには、心るような縁談がありました。決して首を縦には振りません。

出稼ぎで原家に勤めていた柚木（こりの）小三郎に恋していたのです。

ある日、ちんまは小三郎に逢いたい一心で山に行き、イワナに姿を変えて弁当の中に入れておりました。

昼食時、腹をすかせた小三郎は「これはうまそうなイワナだ」と一息に呑み込んでしまいました。

すると、ちんまの姿が湯気たちまちのどが湧き

川の水を飲み続けている間に、身体にギョヤ角、ウロコが生えてくへではありませんか。

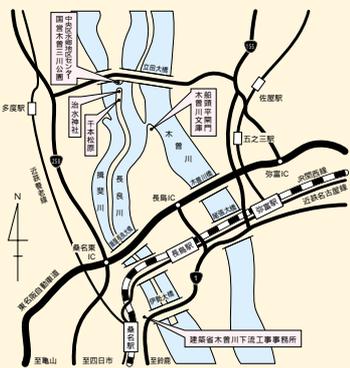
小三郎はあつとつ間に、巨大な白竜に変身し、

大山鳴動して地が割れ、美しい池が生まれました。

「この美しい池は柚ヶ池と呼ばれ、雨乞いの池として知られています。柚ヶ池から東方七百ヨロのところに瀬原と化した、「ちんまが池」があります。



## 木曽川文庫利用案内



- 《開館時間》午前9時～午後4時30分
- 《休館日》毎週月曜日・祝祭日・年末年始
- 《入館料》無料
- 《交通機関》国道1号線尾張大橋から車で約10分  
名神羽島ICから車で約30分  
東名阪長島ICから車で約10分

《お問い合わせ》  
船頭平開門管理所・木曽川文庫  
〒496-0947 愛知県海部郡立田村福原  
TEL(0567)24-6233



## 編集後記

弊誌では、読者のみなさんの声で構成するコーナーを企画しています。身近で起こった出来事、地域の情報などをお知らせください。

宛先 「KISSO」編集 FAX(052)565-1976

今号の編集にあたって、高根村並びに関係のみなさんに大変お世話になりました。また、飯田汲事氏にもご協力をいただきました。お礼申し上げます。次回は、一宮市を特集します。

木曽川文庫ホームページ  
<http://www.kisogawa-bunko.cb.moc.go.jp>

表紙写真  
上：秋空広がる野麦峠  
下左：飛騨川源流  
下右：雨乞いの池「柚ヶ池」